

Dr. 浅岡の

本当にわかる漢方薬

新装版

目 次

はじめに	3
ことわり	5

第1章 漢方薬を理解するための基本事項

1 漢方薬の起源から現在まで	12
1 生い立ち / 2 薬としての成長 / 3 わが国への輸入 / 4 明治以前, 以後	
2 漢方薬の構造	16
1 漢方薬は生薬の複合剤 / 2 漢方薬は生薬を用いた約束処方 / 3 複合 するということ / 4 複合する理由	
3 漢方薬の多様性と理解の仕方	21
1 トッピングによるバリエーションの拡大 / 2 漢方薬の理解の仕方	
4 生薬の理解の仕方	25
1 生薬には必ず自覚症状を改善する働きがある / 2 薬性 / 3 守備範囲 / 4 薬能, 薬性, 守備範囲の組み合わせ / 5 生薬はすでに混合物 / 6 生 薬の evidence	
◆ 帰納法と演繹法	30

第2章 東洋医学の尺度

1 診断	34
1 漢方薬の適応は西洋医学の病名では表現できない / 2 東洋医学の診 断 / 3 状態を表現する用語は日常用語 / 4 状態を表現する用語の基本 / 5 状態を表現する用語の組み合わせ	

2	治療	41
	1 なぜ状態を表現しなければならないか／ 2 状態で治療を行う利点／ 3 東洋医学の治療概念／ 4 状態が診断にあたるということ／ 5 適応病 名の謎	
3	東洋医学に特有の概念	47
	1 気という概念とその異常／ 2 血という概念とその異常／ 3 水という 概念とその異常	

第3章 診療の手順

1	診察	56
	1 診察のとらえかた／ 2 診察の方法と種類／ 3 診察の順番／ 4 所見採 択の優先順位	
2	診察と薬剤との関係	60
	1 約束処方を選ぶ工程／ 2 舌診／ 3 脈診／ 4 診察の手順	

第4章 主要な生薬と処方

1	甘草	70
2	桂枝	74
3	麻黄	79
4	附子	91
	◆ かぜの考え方.....	94
5	細辛	98
6	茯苓, 蒼朮 (白朮), 沢瀉, 猪苓	101
7	半夏	109
8	柴胡	114
9	黄連と黄芩	122

10	人参	129
11	桃仁と牡丹皮	134
12	当帰と川芎	138
13	地黄	144
14	大黄と芒硝	148
15	石膏	153

第5章 グループをなす処方群

1	建中湯類	156
2	補気剤	161
3	補血剤	168
4	補腎剤	173
◆	東洋医学と現代科学の関係	178

付録

付録1	薬価基準収載処方一覧（本編掲載分を除く）	180
付録2	主な生薬の薬性と守備範囲	187
■	処方名・生薬名・解説事項 索引	188
■	適応・主治・症例 索引	193
おわりに		196

症例への アプローチ

- 筋肉のつり 71
- 花粉症対応のいろいろ 84
- 感染症における
診断と治療の関係 85
- 特発性浮腫 87
- 麻黄+石膏の組み合わせ 88
- 麻黄+薏苡仁の組み合わせ 89
- 裏寒の治療 90
- 下痢のいろいろ 92
- 四肢の痛み 92
- 鼻水 99
- めまい 102
- 全身倦怠感 104
- 口の乾き 108
- 食道神経症 111
- 感染性胃腸炎 112
- インフルエンザ後の不調 116
- 精神的な要因がもたらす
往来寒熱 117
- 気鬱による腹部膨満感 118
- かぜ 119
- 心臓神経症 121
- 感染性胃腸炎 125
- ストレスと手足煩熱 125
- 脱水 131
- 便秘 132
- 発作的な頭痛 133
- 大腸憩室炎 136
- 月経痛 143
- 皮膚疾患 146
- 便秘 151
- 過敏性腸症候群 157
- 脾虚の原因 163
- 感染症後の食欲不振 164
- 暑気あたり 164
- 脾虚の1つ～泥状便 165
- 癌に補剤を用いる根拠 170
- 呼吸器症状に用いる生薬 171
- 補血と清熱 172
- 高齢者に多い手足のほてり 176
- 下肢のしびれに牛車腎気丸? 176

臨床のヒント

- 漢方薬の剤型 32
- 陰陽 38
- 表裏寒熱は主に感染症を扱う際に
用いられる尺度 40
- 証は変化する 43
- 気と寒熱 49
- 血の概念 51
- 冷えの原因には4つある 53
- 腹診について 64
- 生薬を味で分類する方法 72
- 構成生薬の数 83
- 約束処方を使い方 83
- 附子を選択する際の決まりごと 93
- 熱薬の守備範囲 100
- 利水の四品 107
- 生姜と乾姜の違い 112
- 処方全体の方向性を左右する
半夏 113
- 裏熱はどうやって確認するのか 122
- 気鬱はなぜ裏熱をもたらすのか 123
- 手足のほてり 124
- 気の異常への対応方法 128
- 気の不足は消化吸収機能の
低下によってもたらされる 130

- 全身倦怠感はいつも気虚と診断できるか？ 132
- 桃仁、牡丹皮は血流改善剤？ ... 137
- 不定愁訴とは 139
- 散薬は香りが大切 142
- 下腹部痛を主治する生薬には2通りある 142
- 漢方薬は長く飲まないと効かない？ 143
- 大黄と芒硝が配合されるとなぜ承気湯と呼ばれるのか 149
- 漠然とした気鬱 150
- 気の異常は日常生活に原因あり ... 152
- 処方名に付けられた大小の意味 ... 158
- 桂枝湯の構成生薬がもつ特性 ... 159
- 五臓の中心に脾あり 166
- 腎虚は syndrome 177

◆ 常套的組み合わせ ◆



- ① 桂枝+茯苓 78
- ② 生姜+大棗+甘草 81
- ③ 半夏+生姜（乾姜） 110
- ④ 柴胡+黄芩 116
- ⑤ 黄連+黄芩 128
- ⑥ 人參+黄耆 167

◆ 生薬よもやま話 ◆



- 多種多様なカレーは台所から 20
- 処方名前と構成する生薬の数 ... 24
- 生薬の分類 上中下 29
- 甘草の歴史 73
- 小青竜湯の名の由来 82
- 茯苓は茯苓 103
- 蒼朮と白朮 104
- 家紋 105
- 黄柏 127
- 人參 129
- 紅花 137
- 修治 147
- 仁のつく生薬 152
- 君子 162

◆ Column ◆



- 中庸の意味 44
- 病名と保険診療 46
- 古代人がイメージした「気」 49
- 滞り 51
- 東洋医学の尺度の多様さ 54
- 漢方治療はオーダーメイド治療？ 59
- 東洋医学と西洋医学の診断のずれが生むもの 64
- 自然は優しい？ 67
- 心とお腹 160
- 五臓について 167
- バイオミクラー 177